

講義、実習の概要

講座名	原子炉研修一般課程
題目	原子力基本法
	■講義 □実習
所要時間	70分
実施場所	研修講義棟
	■講義室 □非管理区域 □第1種管理区域 □第2種管理区域
本講義のねらい	原子力利用に関する法体系とその頂点にある原子力基本法の概要を理解することをねらいとする。
概要	わが国の法体系、原子力利用における法体系、原子力基本法の概要、原子炉等規制法等の法令との関連について講義する。
キーワード	法令、法体系、原子力基本法
使用するRI、危険物、重量物等	無し

講義、実習の概要

講座名	原子炉研修一般課程
題目	原子炉等規制法
	■講義 □実習
所要時間	70分×2 = 140分
実施場所	研修講義棟
	■講義室 □非管理区域 □第1種管理区域 □第2種管理区域
本講義のねらい	原子炉等規制法の基本事項を理解する。
概要	原子炉等規制法に関する安全規制体系全般についての講義を実施する。特に、原子力安全に係わる歴史、法令体系・体制及び安全規制の概要の理解を図ることにより、原子炉施設の安全性の向上を図る。
キーワード	原子力関係法令の歴史、原子力行政の体制、原子力関係法令の体系、安全規制の概要
使用するRI、危険物、重量物等	無し

講義、実習の概要

講座名	原子炉研修一般課程
題目	放射線障害防止法
	■講義 □実習
所要時間	70 分
実施場所	研修講義棟
	■講義室 □非管理区域 □第 1 種管理区域 □第 2 種管理区域
本講義のねらい	放射性同位元素及び放射線発生装置の利用などに関し、放射線障害の発生を防止すると共に公共の安全を確保するために定められている法律を理解する。
概要	障害防止法に関する法令、障害防止法の目的、法体系の概要、障害防止法で使用される用語の定義、許可の基準、法律的手続き等について説明する。
キーワード	放射線障害防止法、放射性同位元素、放射線、使用許可、使用届、表示付認証機器、管理区域
使用する RI、危険物、重量物等	

講義、実習の概要

講座名	原子炉研修一般課程
題目	原子炉施設の品質保証
	■講義 □実習
所要時間	70分
実施場所	研修講義棟
	■講義室 □非管理区域 □第1種管理区域 □第2種管理区域
本講義のねらい	原子炉施設の安全を確保するための品質保証活動の理解を促す。
概要	原子炉施設の品質保証に関する規制の体系と原子力安全規制に取り込まれた品質保証の経緯を解説する。また、原子炉施設の品質保証の基準となっている品質保証規程（日本電気協会 JEAC4111）の要求事項の要旨について解説する。
キーワード	保安ために必要な措置、品質保証、品質マネジメントシステムの原則、業務プロセス、業務の計画、不適合管理、継続的改善、根本原因分析、マネジメントレビュー、内部監査
使用する RI、危険物、重量物等	無し

講義、実習の概要

講座名	原子炉研修一般課程
題目	核物質防護
	■講義 □実習
所要時間	110 分
実施場所	研修講義棟
	■講義室 □非管理区域 □第 1 種管理区域 □第 2 種管理区域
本講義のねらい	核物質防護の目的と、その国際ルールや国内の法令について、理解を促す。
本講義の概要	まず、核物質防護の国際ルールとして、核物質防護条約と IAEA 核物質防護勧告及び両者の関係について解説する。国内では、原子炉等規制法や関連法令とそれらへの IAEA 核物質防護勧告の導入について解説する。さらに、原子力施設の核物質防護システムとその例について説明し、最後に、核セキュリティの重要性に言及する。
キーワード	核物質防護条約、IAEA 核物質防護勧告、核物質防護システム、原子炉等規制法、設計基礎脅威、核セキュリティ
使用する RI、危険物、重量物等	無し

講義、実習の概要

講座名	原子炉研修一般課程
題目	保障措置と計量管理
	■講義 □実習
所要時間	110 分
実施場所	研修講義棟
	■講義室 □非管理区域 □第 1 種管理区域 □第 2 種管理区域
本講義のねらい	保障措置、計量管理の基礎的な内容を理解する。
概要	本講義では、原子力の平和利用を目的とした核不拡散を理念とした IAEA による保障措置活動及び事業者が行う計量管理について、その目的や基礎的な内容について講義を行う。
キーワード	保障措置、計量管理、核不拡散、査察、IAEA
使用する RI、危険物、重量物等	なし

講義、実習の概要

講座名	原子炉研修一般課程
題目	原子力防災対策
	■講義 □実習
所要時間	70分×2 = 140分
実施場所	研修講義棟
	■講義室 □非管理区域 □第1種管理区域 □第2種管理区域
本講義のねらい	我が国の原子力防災体制及びその根拠となる法令等を理解するとともに、IAEA等の考え方を踏まえた原子力災害対策指針の基本的な戦略を学ぶ。
概要	我が国の原子力防災体制について、その根拠となる法令等に基づいて説明する。また、原子力災害対策指針に定められた原子力災害特有の対策やその基準等に加え、事前の計画から緊急時の対応までの一連の戦略についてIAEAの安全指針等に基づき講義する。
キーワード	原子力災害対策特別措置法、原子力災害対策指針、IAEA、国際安全基準
使用するRI、危険物、重量物等	無し

講義、実習の概要

講座名	原子炉研修一般課程
題目	技術者倫理と安全文化 ■講義 □実習
所要時間	70分
実施場所	研修講義棟 ■講義室 □非管理区域 □第1種管理区域 □第2種管理区域
本講義のねらい	技術者倫理や安全文化に係る課題を過去の事例を用いて紹介するとともに、技術者が実務で類似問題に直面した際に解決のための糸口を与える。
概要	技術者倫理では、スペースシャトル・チャレンジャー事故の経緯や東京電力定期検査不正対応について寸劇等を交えて紹介し、それらの原因究明から浮かび上がった技術者倫理の重要性を説明する。原子力安全文化では、チェルノブイリ事故を発端として IAEA の国際原子力安全諮問グループで議論されてきた様々なフレームワークや安全文化劣化の典型的なパターン、品質保証の重要性を紹介するとともに、福島第一原子力発電所事故を契機に、関係者の心構えにも踏み込んで、規制等で強要される安全から事業者が自発的に行う安全に焦点が移行しつつあることについて紹介する。
キーワード	技術者の倫理綱領，行動指針，技術者の社会的責任，内部告発，深層防護，安全文化，レジリエンス工学，安全神話，過信・慢心，国際原子力安全諮問グループ
使用する RI、危険物、重量物等	無し